

令和元年度

久御山町水道事業経営戦略
の事後検証

令和 2 年度 第 3 回久御山町上下水道事業経営審議会
令和 2 年 11 月 24 日（火） 14:00～

目 次

1	令和元年度計画実績比較	
	(1) 収益的収支（税抜き）	1
	(2) 資本的収支（税込み）	2
	(3) 貸借対照表	2
	(4) 分析・評価	3
2	目標達成度評価	
	(1) 投資目標	4
	(2) 財源目標	5

1 令和元年度計画実績比較

決算値と経営戦略における計画値を比較し、分析を行います。

比較分析の方法は、決算値と計画値との差額が±5,000千円以上かつ増減比率が±10.0%以上となる科目を抽出し、その原因等について分析、評価をします。

(1) 収益的収支（税抜き）

（単位：千円）

科 目	決算値	計画値	差 額	比率(%)	判定
営業収益	450,480	418,749	31,731	7.6	
給水収益	413,682	385,414	28,268	7.3	
受託工事収益	757	263	494	187.8	
その他	36,041	33,072	2,969	9.0	
営業外収益	57,357	57,544	△ 187	△ 0.3	
受取利息	465	925	△ 460	△ 49.7	
他会計補助金	0	0	0	—	
長期前受金戻入	56,534	56,335	199	0.4	
その他	358	284	74	26.1	
特別利益	3,855	0	3,855	—	
収益合計	511,692	476,293	35,399	7.4	
営業費用	518,100	509,103	8,997	1.8	
職員給与費	45,181	40,894	4,287	10.5	
経費	324,315	319,833	4,482	1.4	
動力費	16,760	16,273	487	3.0	
光熱水費	459	481	△ 22	△ 4.6	
通信運搬費	1,590	1,348	242	18.0	
修繕費	17,621	16,303	1,318	8.1	
材料費	766	345	421	122.0	
薬品費	2,690	1,866	824	44.2	
委託料	41,783	38,642	3,141	8.1	
受水費	230,157	230,909	△ 752	△ 0.3	
その他	12,489	13,666	△ 1,177	△ 8.6	
減価償却費	147,073	146,951	122	0.1	
資産減耗費	560	825	△ 265	△ 32.1	
その他	971	600	371	61.8	
営業外費用	15,278	16,212	△ 934	△ 5.8	
受取利息	15,096	15,557	△ 461	△ 3.0	
その他	182	655	△ 473	△ 72.2	
特別損失	552	0	552	—	
費用合計	533,930	525,315	8,615	1.6	
当年度純利益※1	△ 22,238	△ 49,022	26,784	△ 54.6	*
未処分利益剰余金※2	△ 30,427	△ 69,074	38,647	△ 56.0	*

※1 △は当年度純損失 ※2 △は未処理欠損金

(2) 資本的収支（税込み）

（単位：千円）

科 目	決算値	計画値	差 額	比率(%)	判定
企業債	27,000	24,000	3,000	12.5	
府補助金	9,320	10,252	△ 932	△ 9.1	
出資金	0	0	0	—	
分担金	12,260	19,610	△ 7,350	△ 37.5	*
有価証券売却収入	97,166	0	97,166	—	*
収入合計	145,746	53,862	91,884	170.6	*
建設改良費	124,955	141,640	△ 16,685	△ 11.8	*
職員給与費	15,468	14,234	1,234	8.7	
拡張工事	0	0	0	—	
更新・改修工事	103,063	119,704	△ 16,641	△ 13.9	*
その他	6,424	7,702	△ 1,278	△ 16.6	
企業債償還金	56,732	56,530	202	0.4	
支出合計	181,687	198,170	△ 16,483	△ 8.3	
資本的収支差引	△ 35,941	△ 144,308	108,367	△ 75.1	*
補填財源	35,941	144,308	△ 108,367	△ 75.1	
損益勘定留保資金	27,706	134,716	△ 107,010	△ 79.4	
利益剰余金処分額	0	0	0	—	
その他	8,235	9,592	△ 1,357	△ 14.1	
補填財源不足額	0	0	0	—	

(3) 貸借対照表

（単位：千円）

科 目	決算値	計画値	差 額	比率(%)	判定
流動資産	655,301	457,615	197,686	43.2	*
うち現金・預金	560,857	381,946	178,911	46.8	*
流動負債	194,528	216,152	△ 21,624	△ 10.0	*
うち一時借入金	0	0	0	—	
企業債残高	850,408	847,621	2,787	0.3	

(4) 分析・評価

ア 収益的収支（税抜き）

判定科目	差額(千円)	比率(%)	分析・評価
当年度純利益 (△は当年度純損失)	26,784	△ 54.6	経営戦略では料金改定を令和2年度に実施することとしていたが、令和2年1月以降に確定する料金から早期実施したため、純損失を削減することができている。
未処分利益剰余金 (△は未処理欠損金)	38,647	△ 56.0	料金改定の早期実施により当年度純損失を削減することができたため、未処理欠損金についても計画値より削減することができている。

イ 資本的収支（税込み）

判定科目	差額(千円)	比率(%)	分析・評価
分担金	△ 7,350	△ 37.5	計画値は過去実績平均としているが、分担金は年度ごとにばらつきがあり、令和元年度は、新規給水分担金、増徴分担金ともに計画値を下回る結果となった。
有価証券売却収入	97,166	—	計画では売却予定はなかった保有有価証券について、売却益が見込める価格となったため売却することとした。
収入合計	91,884	170.6	保有有価証券の売却により、収入合計は大幅に計画値を上回っている。
建設改良費	△ 16,685	△ 11.8	更新・改修工事費の減により、建設改良費は計画値より削減できている。
更新・改修工事	△ 16,641	△ 13.9	入札差金等により、更新・改修工事費は計画値より削減できている。
資本的収支差引	108,367	△ 75.1	有価証券売却収入の皆増及び建設改良費の減により、資本的収支差引は圧縮されている。

ウ 貸借対照表

判定科目	差額(千円)	比率(%)	分析・評価
流動資産	197,686	43.2	現金・預金の増により、流動資産は計画値より大幅に増額できている。
うち現金・預金	178,911	46.8	料金改定の早期実施による収益の増、有価証券売却収入の皆増及び建設改良費の減により、現金・預金は計画値より大幅に増額できている。
流動負債	△ 21,624	△ 10.0	未払金計上額の差

エ 総括

料金改定について、経営戦略では令和2年度を実施時期としていたが、水道事業検討委員会からの提言でもあったとおり、料金改定の実施時期が遅れるほど累積欠損金は拡大することとなり、今後の経営を圧迫することとなるため、計画より早期（令和2年1月以降に確定する料金から）に実施することとした。その結果、給水収益は計画値より増収となり、当年度純損失及び未処理欠損金については計画値より削減することができている。しかしながら今後は、本町が受水している京都府営水道の料金が、経営戦略で見込んでいたより大きく改定されることが示されているため、経営状況は経営戦略で計画していたより厳しい状況となることが予測される。

※ は、計画より良い値の項目を、 は、計画より悪い値の項目を示している。

2 目標達成度評価

(1) 投資目標

目標	年度	計画期間										年次評価	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	令和元年度	
投資目標	<p>令和9年度までに重要給水施設配水管耐震適合率を100%とします。</p> <p>重要給水施設配水管の耐震化を進め令和9年度までに重要給水施設配水管耐震適合率を100%とすることにより、地震による被害を最小限にとどめる災害に強い水道を目指します。</p>	年度目標 (%)	58.4	62.5	69.2	76.0	84.5	89.1	95.6	97.5	100.0	100.0	計画どおりに重要給水施設配水管耐震化事業を進められており、耐震適合率も目標値を達成することができている。
		実績 (%)	58.4										
	<p>鉛製給水管残件数をゼロとします。</p> <p>令和11年度までに鉛製給水管残件数をゼロとする計画を進め、「安全な水をいつも送る水道」の実現を目指します。計画期間において、着実に鉛製給水管の改修を進めていきます。</p>	年度目標 (件)	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	991	767	518	328	110	計画では令和元年度の鉛製給水管改修事業の本工事の予定はなかったが、対象地域で他部署の工事があり、併せて工事を行うことで経費削減が図れるため、前倒しで工事を実施した。また、漏水修繕工事に伴い改修を実施している。その結果、残件数は30件の減少となった。
		実績 (件)	1,101										
	<p>毎年の管路更新率を1.5%とします。</p> <p>当面の間は重要給水施設配水管の耐震化と鉛製給水管の解消に併せた配水管の布設替えを進めて参りますが、その後は、残る管路についても老朽化が進んでいるため、老朽配水管更新計画を策定し、計画的に順次更新をしていきます。管種毎の実使用年数を踏まえ、毎年の管路更新率の目標を1.5%とし、「強靱で安定した水道」の実現を目指します。</p>	年度目標 (%)	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	本目標値は主に老朽配水管更新計画策定時に目標とすることを想定しているため、令和元年度は目標値には達していないが、重要給水施設配水管耐震化事業は計画どおり進捗している。
		実績 (%)	0.49										

※ は、目標値より良い値の項目を、 は、目標値より悪い値の項目を示している。

(2) 財源目標

目標	年度	計画期間										年次評価
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	令和元年度
財源目標	<p><u>毎年の経常収支比率を110%以上とします。</u></p> <p>経常収支比率を類似団体平均値と同水準の110%以上となるよう収支改善に努め、独立採算での経営を目指します。</p>	<p>年度目標 (%) (計画値)</p> <p>110.00</p> <p>90.67</p>	<p>110.00</p> <p>(102.14)</p>	<p>110.00</p> <p>(101.22)</p>	<p>110.00</p> <p>(101.66)</p>	<p>110.00</p> <p>(101.35)</p>	<p>110.00</p> <p>(100.40)</p>	<p>110.00</p> <p>(109.49)</p>	<p>110.00</p> <p>(105.93)</p>	<p>110.00</p> <p>(106.42)</p>	<p>110.00</p> <p>(104.94)</p>	<p>本目標値110%以上は長期的な経営目標であり、現時点での達成は難しいが、料金改定を早期に実施したことにより、計画値については上回ることができている。</p>
	<p>実績 (%)</p> <p>95.21</p>											
	<p><u>料金回収率を100%以上とします。</u></p> <p>水供給に必要な費用を料金で賄えるよう、料金回収率100%以上を目指し、料金の見直しも含めた改善を行います。</p>	<p>年度目標 (%) (計画値)</p> <p>100.00</p> <p>(82.29)</p>	<p>100.00</p> <p>(95.58)</p>	<p>100.00</p> <p>(94.43)</p>	<p>100.00</p> <p>(95.02)</p>	<p>100.00</p> <p>(94.67)</p>	<p>100.00</p> <p>(93.64)</p>	<p>100.00</p> <p>(104.01)</p>	<p>100.00</p> <p>(98.83)</p>	<p>100.00</p> <p>(100.71)</p>	<p>100.00</p> <p>(99.11)</p>	<p>経常収支比率と同様、本目標値100%以上は長期的な経営目標であり、現時点での達成は難しいが、料金改定を早期に実施したことにより、計画値については上回ることができている。</p>
	<p>実績 (%)</p> <p>86.93</p>											
<p><u>流動比率200%以上を維持します。</u></p> <p>更新投資に必要な資金を確保するとともに、安定的な事業運営を行うため、流動比率200%以上を維持します。</p>	<p>年度目標 (%) (計画値)</p> <p>200.00</p> <p>(211.71)</p>	<p>200.00</p> <p>(187.56)</p>	<p>200.00</p> <p>(199.11)</p>	<p>200.00</p> <p>(213.00)</p>	<p>200.00</p> <p>(217.41)</p>	<p>200.00</p> <p>(224.28)</p>	<p>200.00</p> <p>(232.04)</p>	<p>200.00</p> <p>(202.66)</p>	<p>200.00</p> <p>(227.86)</p>	<p>200.00</p> <p>(204.05)</p>	<p>料金改定の早期実施及び保有有価証券の売却の影響により、計画値を大きく上回ることができている。</p>	
<p>実績 (%)</p> <p>336.87</p>												
<p><u>企業債の残高を現状以下とします。</u></p> <p>世代間の負担を公平にするため、企業債の発行を抑え、企業債残高を現状以下とすることにより、将来への負担を先延ばしにしない経営を目指します。</p>	<p>年度目標 (千円) (計画値)</p> <p>850,000</p> <p>(847,621)</p>	<p>850,000</p> <p>(815,755)</p>	<p>850,000</p> <p>(789,648)</p>	<p>850,000</p> <p>(765,768)</p>	<p>850,000</p> <p>(753,367)</p>	<p>850,000</p> <p>(767,497)</p>	<p>850,000</p> <p>(796,069)</p>	<p>850,000</p> <p>(796,362)</p>	<p>850,000</p> <p>(796,099)</p>	<p>850,000</p> <p>(826,237)</p>	<p>対象事業費の増加により、企業債の新規発行額が計画より大きくなったため、目標値及び計画値を少し超えることとなった。</p>	
<p>実績 (千円)</p> <p>850,408</p>												

※ は、目標値より良い値の項目を、 は、目標値より悪い値の項目を示している。